

平成27年度 中国地方建設技術開発交流会 質問及び回答

課題名：微動探査による地震動評価のための地盤構造調査 ―鳥取県中部地域の例―

発表者：鳥取大学大学院 工学研究科 助教 野口 竜也

《感想と質問》

地震発生に伴いメディアで公表される震度は、地震計が設置してある場所の地盤や地形が大きく影響していることは認識しています。

この度の野口先生の研究発表を拝聴し期待することがあります。それは観測点の震度と、その周辺の主要な地域（野口先生の微動記録などから）公表震度の換算値が示唆できないかということです。

震源の深さや規模による地震動の伝播メカニズムの違いがあるので正確な値にはならないと思います。が、地域における「自主防災組織」や地域内での地震に関する啓発として、観測点震度±換算値（簡易補正）が活かさないかと考えています。

《回答》

貴重なご質問（ご提言）ありがとうございます。

微動探査では地盤震動特性と地盤構造モデルが得られますので、それらから軟弱地盤層や特定の深さまでの平均 S 波速度、卓越周期などから震度の増分を計算（換算）することは可能です。事前にそのような計算をしておけば、有感地震が起こった際に最寄りの震度観測点の震度値に各地域の増分を足し合わせるだけで、簡易な震度の推定ができます。今後は結果の活用法についても研究を進めていく予定です。